

新市民病院は5月1日(金)に開院します ～安心とつながりの拠点へ～

新しい市民病院は、「安心とつながりの拠点へ」を病院の理念にかかげ、高度急性期医療を中心とする先進的な医療サービスを提供し、感染症や災害など健康危機管理の拠点としての役割を果たし、新型コロナウイルス感染症対策における医療機能も強化されます。

また、地域の医療機関や介護福祉施設との連携をより高めていきます。建物の整備にあたっては、「パークホスピタル」をコンセプトとし、三ツ沢公園との一体性を重視した設計となっています。

なお、移転後の現市民病院は、すみやかに準備を進め、新型コロナウイルス感染症の陽性患者（無症状・軽症者）用の宿泊療養施設として活用していきます。



1 新病院の特徴

(1) 新型コロナウイルス感染症対応など感染症医療機能の充実・強化

- 感染症に対応した陰圧管理ができる ICU（4床）、NICU（2床）、手術室（1室）、救命HCU（2床）を整備。
※1 ※2
- 感染症病棟 26床（第一種感染症病床2床、第二種感染症病床24床）を全室個室化。
※3
- 感染症患者専用の入口、陰圧の診察室等を備えた感染症専門外来（地下1階）、感染症病棟（7階）への専用エレベーターを整備し、一般患者との動線を完全に分離。

(2) 高度急性期医療機能の充実・強化

- 手術室の増室（9室→15室）、外来化学療法室の増床（15床→30床）、高精度放射線治療装置（リニアック）の導入などによる、がん医療の充実。
- 救命救急センターの増床（20床→24床）、血管撮影室の増室（2室→3室）によるカテーテル治療の機能強化などによる、救急医療、心血管疾患・脳卒中医療の充実。
- 分娩室の増室（1室→6室）、陣痛から分娩、回復までを同じ部屋で行う LDR 対応の導入、NICU・GCUの増床（12床→21床）などによる、周産期医療の充実。
※4

(3) 災害時における医療機能の充実・強化

- 免震構造の採用（診療棟）、外部からのライフライン途絶時に7日間自立できる設備及び備蓄などによる災害拠点病院としての機能強化。

(4) 療養環境の向上、地域医療人材育成への貢献

- 現在の6床室を4床室とし、プライバシー意識の高まり等に応えた個室数の増加。
- 300人収容可能な大講堂を整備し、市民公開講座や研修などにより地域医療人材を育成。

※1 ICU…集中治療室 ※2 NICU…新生児集中治療室 ※3 HCU…高度治療室

※4 LDR…陣痛（labor（陣痛）deliver（分娩）recovery（回復）の略） ※5 GCU…新生児治療回復室

2 横浜市立市民病院の概要

	現 市民病院	新 市民病院
敷地面積	20,389 m ²	29,260.82 m ²
延床面積	43,248 m ²	79,612.59 m ²
病床数（うち個室の数）	650床（125室）	650床（271室）

3 新病院の所在地・交通アクセス

【所在地】 神奈川区三ツ沢西町 1-1

【代表電話】 045-316-4580



【交通アクセス】

■ バスでお越しの方（バス停「市民病院」下車）

- ・ 横浜駅西口から
 - 87 系統（横浜駅西口～市民病院～三ツ沢上町駅前～横浜駅西口）
 - 34 系統（横浜駅西口～市民病院～沢渡～横浜駅西口）※平日の日中時間帯のみ
- ・ 東神奈川駅から
 - 88 系統（東神奈川駅西口～東横反町駅前～三ツ沢上町駅前～市民病院）
- ・ 保土ヶ谷区内や相鉄線沿線から
 - 208 系統（横浜駅西口～和田町～市民病院～横浜駅西口）

■ お車でお越しの方：診療棟地下駐車場 約200台

お問合せ先		
医療局病院経営本部市民病院経営戦略課長	江口 孝	Tel 045- 331-1249
医療局病院経営本部病院経営課長	門林 宏英	Tel 045- 671-4816



【総合受付】



【手術室】



【有料個室】